

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671100444
法人名	株式会社 ケアネット徳洲会
事業所名	グループホームふきのとう
訪問調査日	平成 19 年 11 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 8 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	671100444		
法人名	株式会社 ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームふきのとう		
所在地 (電話番号)	山形県新庄市大字鳥越字駒場4519-2 (電話) 0233-28-0771		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年11月6日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(平成19年9月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 29 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	7 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	新築/改築
建物構造	平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,350 円		

(4) 利用者の概要(9月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2		2 名	
要介護3	5 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳		最高 95 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新庄徳洲会病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造平屋建てのホームは家庭的で落ち着いた雰囲気があり、「利用者は生活の主体者」「職員は生活のパートナー」と考え、利用者個々の希望、能力、その人らしさを大切にしながら、園芸療法、レクリエーション、カラオケ大会などによる心身の癒しを通じた、喜びある毎日を送ることができるような支援が行われています。「看取りに関する指針」に基づき、系列法人の医療機関や訪問看護ステーションとも連携しながら、利用者や家族が地域の中で最後まで安心して暮らすことができる体制づくりがなされており、また、自己評価と外部評価の課題改善への取り組みを通してケアサービスの向上と職員の意識向上を図りながら、その人らしく・自由に・安心して・ゆったりと・穏やかに暮らせるサービス提供が行われているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者の状態や生活の流れに合わせた支援が、よりできるような職員体制の検討については、職員配置の検討・見直しにより待機職員の充足も図られ、職員体制の改善につなげることができた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で実施し、その意義も理解されており、課題は多いができる事から改善に取り組んでいる。外部評価結果も職員全員で話し合い、改善に取り組みながらサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2カ月に1回開催の運営推進会議では、ホームの現況報告や利用者の状況などの報告、防災対策についての質問や助言などが出されており、サービスの向上につながっている。また、会議に参加できなかった方には、口頭で報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置したり、面会時に利用者の現況などを伝えながら、意見や希望がないか確認している。今までのところ苦情は届いていないが、苦情があった場合には話し合いを行って反映させていくように心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	畑仕事や散歩の際の挨拶、ホームの夏祭りへの地域住民の参加など、交流は徐々に増えてきているが、町内会には加入しておらず、地域の人々と交流する機会も限られているため、今後は地域の行事やゴミ清掃などのボランティア活動への参加やホームの収穫祭へ地域住民の参加をお願いすることも検討されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしく自由に、安心してゆったり穏やかに、地域と共に暮らす」という理念をホーム独自に作り上げ、地域の中でその人らしく自由に穏やかに暮らせるように支援をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホームの玄関や職員の休憩室に掲示し、常に職員全員の視野に入るようにしており、また、毎日、業務開始前に唱和して理念の共有に努めながら、その実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	畑仕事や散歩の際の挨拶、ホームの夏祭りへの地域住民の参加など、交流は徐々に増えてきているが、町内会には加入しておらず、地域の人々と交流する機会も限られているため、今後は地域の行事やゴミ清掃などのボランティア活動への参加やホームの収穫祭へ地域住民の参加をお願いすることも検討されている。	○	町内会への加入や、地域行事や活動への参加、ホームの機能を地域に開放する取り組みを通して、認知症高齢者やグループホームへの理解をより得ながら、地域の一員としての交流をさらに図っていく取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で実施し、その意義も理解されており、課題は多いができることから改善に取り組んでいる。外部評価結果も職員全員で話し合い、改善に取り組みながらサービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催の運営推進会議では、ホームの現況報告や利用者の状況などの報告、防災対策についての質問や助言などが出されており、サービスの向上につながっている。また、会議に参加できなかった方には、口頭で報告している。		

山形県 グループホームふきのとう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市開催のケア会議(年6回)や認知症や悪徳商法を取り上げた勉強会(年3回)への出席、広報を届けながら情報交換を行う(毎月1回)など、市担当者にもいつでも相談できる体制ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者個々の暮らしぶりを書いたお便りに、金銭請求書を添えて家族へ送付しており、面会時にも伝えている。心身に変化があった時や受診結果については、その都度電話できめ細かく報告されており、職員の異動についても報告や紹介がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会時に利用者の現況などを伝えながら、意見や希望がないか確認している。今までのところ苦情は届いていないが、苦情があった場合には話し合いを行って反映させていくように心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響が最小限に止められるよう引き継ぎを十分に行った上で、利用者の情報収集に努めながら、馴染みの職員が配慮しながら支援をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループ内の研修会やホーム独自の勉強会を毎月実施し、また、外部研修の県主催研修会や介護福祉士会研修に毎月1名ずつ受講しており、職員は最低でも年1回は研修を受講している。研修報告書も作成されており、全職員に配布している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会や最上グループホーム連絡協議会に入会しており、交流会や勉強会に積極的に参加し、11月には交換研修を予定している。		

山形県 グループホームふきのとう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には人生の良き先輩として接し、料理や掃除などの家事全般、畑仕事、地域の歴史、方言を教えてもらったり、昔の事を話し合ったりしながら、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりの中で、本人の希望や訴えを聞き、把握に努めている。得られた情報は介護計画に反映し、検討している。困難な方には、家族に聞いたり、日々の様子や表情からの気づきを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の要望を聞き、職員の意見を取り入れた介護計画を作成している。検討会に出られなかった職員には、会議の申し送り簿で伝達して意見をもらい、全員の意見が反映されるように取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月に1回見直しを行い、月に1回評価・点検・確認を実施し、また、状態の変化に応じて随時の見直しを行っている。		

山形県 グループホームふきのとう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人及び家族が希望する医療機関に受診できるよう支 援している。協力医療機関がかかりつけ医となっている 場合は、職員が通院介助を行い、他のかかりつけ医の 場合は家族の対応により通院し、家族が不都合の時は 職員が通院介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	「重度化した場合における対応に係る指針」を定めて職 員全員で共有しており、家族にも利用契約時に説明し ている。急変の危険性がある利用者に対しては、家 族、医師と頻繁に話し合っ対応を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	方言を用いた会話、さりげない排泄チェックなど、利用 者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した支援を 行っている。また、記録は事務室や休憩室で記録し、 個人情報の取り扱いにも十分注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	穏やかに自由に話しをしたり、カラオケ、散歩をしたりし ながら、利用者一人ひとりの希望や生活のペースに合 わせて過ごすことができるよう支援をしている。		

山形県 グループホームふきのとう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に、畑から旬の野菜を収穫し、調理に取り入れたり、買い物、後片付けを行い、食事も同じテーブルで楽しみながら食べている。献立と食材は、利用者の希望を取り入れ、柔軟に対応してくれる業者に依頼している。外食も月2～3回取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる準備は整っており、希望に応じて入浴できることは説明している。また、水虫などの感染症予防のために足浴も実施されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や能力を活かしながら、掃除、調理、畑仕事、納品食材のチェックなどの役割、園芸活動やレクリエーション、カラオケなどの楽しみ事、また、散歩や外食、ドライブ、外出などを行って、喜びのある日々になるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の希望を考慮しながら、日光浴や散歩、買い物、外食、ドライブ、畑仕事、最上川散策、最上公園に行くなどの外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中、玄関や窓、非常口に鍵をかけることはなく、利用者の自由な暮らしを支えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(6月と10月)消防署の協力を得ながら、利用者と共に日中の防災訓練を実施している。また、夜間を想定した訓練も地域住民の協力を得て実施する予定があり、現在検討中である。		

山形県 グループホームふきのとう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日チェック表に記録し、把握している。また、利用者の体調や摂取状況に応じて、お粥、きざみ食などが提供されており、腎臓機能低下の方には、医師の指示による支援も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の居間にはコタツが置かれ、季節の壁画や花が飾られた共用空間は広くゆったりとしており、ホームから見える花畑には色とりどりの季節の花が植えられ、季節感を味わうことができる。また、日中は利用者が好む民謡番組のテレビを楽しむこともでき、利用者が飽きずに居心地よく過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたベッドなどの家具やテレビ、テープレコーダーが持ち込まれ、写真や小物なども飾って、居心地よく過ごせるように配慮している。		